

身重の体で広島へ

今年8月で90歳になります。6人兄弟の末っ子で、朝鮮(韓国)で生まれました。朝鮮の日本人女学校に通い、大学生のころ大東亜戦争が勃発して日本に帰りました。

20歳で見合い結婚した相手は軍人で広島に配属が決まり、顔も見ないまま結婚を決めました。

顔見知りがない広島で翌年、夫が転属で家に帰らなくなり、一人ぼっちの家で空襲を迎えます。妊娠5カ月でした。

ある日、呉に爆弾が落ち、2階から見ると、空が真っ赤になっていました。分厚い防災頭巾をかぶり、警報が出るたび焼夷弾を消すため、家中のやかんやバケツに水をためて、「こんな生活は嫌」と、山口県の母方の

〈5〉 未来につながるのが私の使命

京都市 小高 美代子^{さん}(89)



驚いて教えてくれました。ガラスが刺さっていたのです。痛みは感じませんでした。

無意味に命を取り合うな

娘を出産し、家で夫の仕事を手伝っていましたら、気分が悪くめまいのする日が続きました。たまた

親せきを頼って疎開しました。叔母は「田舎には爆弾は落ちない。好きなだけいたらいい」と言ってくれましたが、身重の体で8月1日に広島へ。金物屋のおばさんが、「火消しは多い方がいい」と2階に住まわせてくれました。爆心地から1・8キロのところでした。

あちこちからうめき声が

8月6日の朝、空襲警報が鳴ったまま、おばさんは仕事に向かい、私はお米を炊きに土間に。その家のおばあさんと4歳の男の子が客間で遊んでいました。突然、ピカッと体験したことのない強烈な稲光を見ました。男の子を呼ぶ声が聞こえ、しばらく記憶がありません。気絶していたと思います。真っ暗な中「死にたくない」と何度も絶叫しながら歩いていると、母がお百度参りをしている夢を見ていました。

すぐに男の子とおばあさんの名前を呼びました。子どもはどこからかするっと出てきました。が、おばあさんは大きな名木に挟まれて一人では助けることができず、人を探しに行きましたが、あちこちの建物からうめき声が聞こえました。

背中にガラスが刺さって

出産準備のおむつや、夫が大切にしていたものをリュックに詰め水筒を持って逃げました。

やがて黒い雨が降り出しました。雨はコールタールを薄めたような変な色とにおいがしました。

1時間ほどして雨がやみ、緊急時の避難場所にと約束していた家にたどり着くと、20人ほどが倒れこんでいました。私もすぐに炊き出しの手伝いを始めましたが、暑くて着ていたワンピースを脱ぐと、後ろにいた人が「背中が真っ赤よ!!」と

原爆裁判ではきれいに並べられた死体の絵を見せられ「これを見ましたか」と聞かれたことがあります。腹が立ちました。

私が見たのは、折り重なって、どの人も助かりたいと悲惨な光景です。

戦争で兄や大切な人をとられました。安倍首相は戦争する国を作ろうとしています。戦争は絶対ダメ。無意味に命を取り合うのはやめてほしい。未来につないでいくために私は語ります。それが私の使命です。

いま伝えたい

被爆者から

2015年・被爆70年
NPT再検討会議へ